

第2回鳥取県日野地区連携・共同協議会 会議概要

日時:平成23年1月26日(金)午後2時から3時まで

場所:日野総合事務所大会議室

出席:知事、業務効率推進課長、自治振興課長、日野総合事務所長、日南町長、日南町副町長、日野町長、日野町総務課長、江府町長、江府町副町長

1 あいさつ(要旨)

(1)竹内会長

22年度は検討が中心であったが23年度は具体的前進が必要。特に機関の共同設置を提案していきたいと考えている。財政面のメリット・デメリットだけでなく地域の振興につながるのなら多少コストがかかっても進めていく。具体的なものを実現していきたい。

(2)平井知事

(江府町のお見舞い、県の大雪関連災害対策説明の後)

協議会の枠組みでできることが多いと思うので色々議論して、今までにないような大胆な仕組づくりをここをモデルに発信して欲しい。

2 会議録署名委員の指名

竹内会長が「日野町の景山町長」及び「日南町の増原町長」、2名を指名した。

3 報告

(1)平成22年度事業実施状況等について

事務局の古都事務長から別添資料により説明。

4 議事

(1)第1号議案 平成23年度事業計画(案)について

(2)第2号議案 平成23年度歳入歳出予算(案)について

(3)第3号議案 平成23年度負担金(案)の決定について

事務局の古都事務長から別添資料により一括説明。(各議案承認済。)

5 意見交換

<監査委員事務局の共同設置>

- ・(竹内会長) 2月から専門部会等で検討を始めるということなので、何とか23年度中に検討を行って、24年度には実現を目指して欲しい。また、将来的には監査委員や外部監査のこともあり、事務局で事務監査(日南町では実施されている。)ができるよう、日野郡で共同機関を3町で設置することについて意思統一してよいか。(各委員了承。)
- ・(平井知事) 全面的にサポートさせていただきたい。せっかく3町が踏み出される(共同設置される)のであれば、法的な問題もあるかもしれないが、県の監査の仕事の一部を委託するというようなことで活用させていただく。その部分はもちろん負担金を払う。

<道路の除雪>

- ・(平井知事) 県道の分担や町への委託など色々入り組んでいるが、9号線の大渋滞で思ったのは、コントロールする所が、地域全体の現場を見て優先順位を付けていくのが本来の姿。そんな観点で色々共同領域を自由に議論して、幹事会などを活用して少し幅を広げてやっていけばいいと思う。
- ・(竹内会長) 立ち往生等何かあったときにはまず役場に連絡がある。県道だとうだとかではなく、現場に近

い役場が対応するのがよいのではないか。

- ・(平井知事) 幹事会でどういう装備を持っているか情報交換をまずして、日野のシステムを作ってはどうか。日南町は27台も除雪の機械がある。相互の応援体制を見直してもいいのではないか。
協議会を作って県と町の二つの行政レベルが結合した形になっており、常識を破ることができ、県と町が事務を持ち合っでやれるので、やろうと思えば協議会の名においてならできるという考えで、もっと物事がスムーズに進むと思う。
- ・(竹内会長) これは専門部会できっちり進めて欲しい。

* 法的検討等(道路維持専門部会において確認等すべき事項)

- ・現行法では国道については歩道部分のみ町の管理が可能。(市は全面可能。)
- ・県と町と連携して法律を変えるような取組も必要では。
- ・日野郡のケースをリーディングケースとして全国に拡げてはどうか。
- ・町と県が連携して国に投げかけていくことも必要では
- ・知事コメント→法律的な面では難しいが協議会なら大胆に色々な取組が可能では。有利なところを活かしては。

<道路の維持管理>

- ・(竹内会長) 主要観光道路の維持管理を県でもらっているが、身近な町が気付いたりする部分がある。試験的でもいいので、連絡を取り合っで対応できるようなモデル路線を作ってはどうか。
- ・(平井知事) モデル的にこのエリア、このルートに限ってもいいと思う。
- ・(増原町長) 法律も変えていかなければと思う。町も委託料をいただいて実施するという方法も考えられる。

<職員研修>

- ・(増原町長) 行政の中身をよく知ることが大事。3町の職員がそれぞれ集まっで同じような基盤や風土、高齢化などがどういふ風に進んでいくか、町の向かう方向や姿勢を共通認識することが大事。例えば予算編成が終わった後、新年度の予算の目玉について職員が意識を持っで、3町が同じような行政をするのではなく、それぞれ得意な分野を生かしながら日野郡としてひとつの市民権や居住権を作っでいくことが必要。
- ・(景山町長) ぜひ実施して欲しい。研修会場が米子市や鳥取市など距離があり、日野郡での開催は少ない。まずは「接遇研修」ぐらいから始めて欲しい。
- ・(平井知事) 景山町長の意見に賛同。県では独自のシステムで県と市町村とか相乗りしながら職員研修のスタッフを持っでやっている。これは町村会や市町村振興協会がお金を出しているので、そういうところと話をまとめたいただければ、例えば県と共同で持っでいる職員人材開発センターに研修の一部を日野郡実施にして、町村の職員、県の職員で合宿等の特徴的な研修を共同実施も現実的に可能ではないかと思う。県では島根県と共同研修をするなど、課題設定型の研修をやっでおり効果があると思う。成果として共同のポータルサイト作成や山陰 LOHAS「おかげ」というタイトルの本を共同執筆することが実現できた。
- ・(森田課長) 研修の件は、持ち帰り検討させてもらう。
(日野郡独自の研修実施について、委託が可能かについて検討する。)
- ・(増原町長) 研修の参加者に若い方の視点が必要な場合があるが、この地域に若者はいない。町外からの参加者を呼んでもいいと思う。また、開催情報の共有が必要。
- ・(景山町長) 日南町が積極的にされているので、職員に聴かせてやりたい。イベントなどの情報は図書館に置いてあり情報収集ができるが、この協議会を使っで研修情報等を活用したいと思う。

<障がい者雇用>

- ・(景山町長) 日野町で知的障害者施設ができて5年になるが町内の行事に積極的に参加してもらっで地域に根付いている。何よりも町民の障がいに対する理解が深まった点大きい。
日野郡として「障がい者に優しい地域」を目指してはどうか。

現在、施設が遊休地を使って菜種を栽培して搾油する取組を行っている。

安心安全な「菜種油」を郡内の方に食べて欲しい。そのためにも栽培に対する県の支援が必須。「農福連携」に力を入れて欲しい。

- ・(平井知事) 「農福連携」は菜種以外にも結構あり、障がい者との親和性も強い。
- ・(竹内会長) 施設や関係者の皆様と意見交換をしながら、具体的に野菜を育てて販売するなど、遊休農地も増えており、机上の議論よりまずはやってみること。

<共同発注>

- ・(竹内会長) 融雪剤について検討したが県と江府町しか数量が出ないということで3町の足並みが揃わず断念。県と江府町だけでも取り組むべきであった。コストや効率性だけにこだわらずに地域での産業振興という観点も必要。
- ・(平井知事) リストを作ってお互い突き合わせて拡大していけばいいと思う。
- ・(竹内会長) 「かもの法則」でマイナス志向から「できるかも」に変えていかなくてはいけない。

<発達支援>

- ・(景山町長) 発達支援の研修を行ったところ、保育園の先生から高校の先生まで多くの教員が参加された。かなり関心が高いと思うので引き続き継続をお願いしたい。
- ・(竹内会長) 保育士に聞いたところ、家庭環境の変化など、保護者のほうも感心が高い。
- ・(平井知事) 倉吉にある県のセンターでは、埼玉から人材を呼んでおり全国的にも注目されるレベルのノウハウを持っている。日野郡のなかでそれを使いやすいようにすればいいと思う。

<消費者行政>

- ・(竹内会長) のぼり旗の設置は、恒常的に立てて置くのか。
- ・(古都事務長) 雪等の時期は避けて、恒常的に立てて置く予定。住民の方に実際に立てていただくとき、色々な話をしていただくことにも意義があるのではと思う。
- ・(増原町長) 全戸配付のカレンダーを作った。オレオレ詐欺等の事例が掲載されている。また、職員が紙芝居を作ったり、職員レベルで色々な発想が出てくればいいと思う。